

INFORMATION

つまずいたり、悩んだり、笑ったり

「人生、 ただいま修行中」

絶賛公開中

配給：ロングライド

看護学生たちの成長を追ったフランスのドキュメンタリー映画が全国で公開中だ。

これを監督・撮影・編集したニコラ・フィリベール監督は、2016年に塞栓症で一命を取り留める経験をしたので、医療関係者たちへのオマージュとしてこの映画を撮ったのだという。監督のこれまでの作品を調べると、フランスで200万人動員を記録した「ぼくの好きな先生」の舞台である小さな村の学校をはじめ、動物園、美術館など人が人の心を見つめるにはびつりの魅力的な小世界がずらりと現れた。なるほど、看護学校という場も、まさにそのような世界の一つに違いない。

撮影されたのはパリ郊外にあるクロワ・サンシモン校という看護学校で、学生たちは民族、宗教もさまざまだ。撮影は5カ月間にわたり、模型を使った基礎的な技術の学習シーンに始まり、実際の患者を相手に注射、抜糸、ギプスの取り外しなどを行う病棟実習もウィットに富んだ患者たちの会話と共に生き生きと撮られている。

そして、何と言っても、この映

画の見どころは、実習後の学生と教官の個別面談だ。末期がんで亡くなる患者の多い病棟や精神病棟、職場ハラスメントの多い病棟などで疲弊した学生たちが、ぼろぼろになって帰港した船のように教官の前に座る。ご自身が看護教育を受けていた『助産雑誌』読者には、たまらないシーンの連続だろう。その経験はない私でさえ、学生たちの赤裸々な言葉や涙を受け止め、温かく、しかしプロフェッショナルに言葉を返す教官たちの姿には見惚れてしまった。悲しいことがあっても、常に前を向くこと。それが、仕事だ。

ナレーションもない。感情を盛り上げる音楽もない。でも、だからこそ、カメラを回す監督の心が伝わってくる。エンドロールに、この映画唯一の音楽として流れたのはボブ・ディランの“Don't Think Twice, It's All Right”。監督が、ある朝、撮影に向かう途中にカー・ラジオで流れたのだそうだが、映画では監督が学生たちを励ましているようにも聞こえた。(出産ジャーナリスト 河合 蘭)



©Archipel 35, France 3 Cinéma, Longride -2018

【監督・撮影・編集】

ニコラ・フィリベール

【公式ホームページ】

longride.jp/tadaima/

2018年／フランス／フランス語／105分／アメリカンビスタ／5.1ch／カラー／英題：Each and Every Moment／日本語字幕：丸山垂穂／字幕監修：西川瑞希 後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランス日本／文部科学省特別選定（青年，成人向き）／文部科学省選定（少年向き）／東京都推薦映画／厚生労働省社会保障審議会推薦